

国立国語研究所学術情報リポジトリ

八丈方言の音韻

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002404

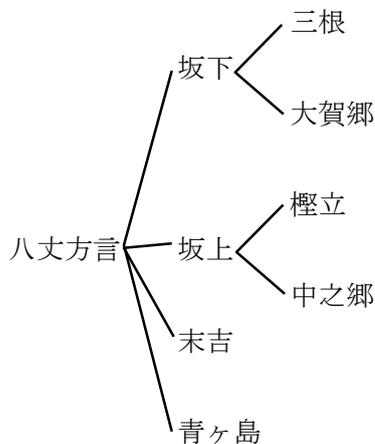
八丈方言の音韻

松浦 年男

1 はじめに

八丈方言は5つの集落（旧5ヶ村）それぞれに言語的特徴があり、特に、三根、大賀郷からなる坂下と、檜立、中之郷からなる坂上、そして末吉と青ヶ島が単独で異なるグループに属する（金田 2001）。

(1) 八丈方言の分類



本章では2012年9月に行った八丈方言の調査データに基づき、青ヶ島を除く各地域について、その音韻、音声的特徴を概観する。特に、標準日本語との対応関係を見て行く。

用例の表記は調査票に記載された簡易音声表記を用いるが、誤解が生じないであろう範囲において改変を加えた。また、古形とされたものについても掲載している。なお、基本的にある単語に現れた語形は全て記載したが、語種による違いや極めて小さな音声的違いと判断したものなど一部は省略した。詳しくは巻末の調査データ一覧を参照されたい。

八丈方言の音韻、音声については国立国語研究所(1950)、馬瀬(1961)、金田(2001)をはじめ多くの研究者により検討がなされている。これらの結果との異同についても考察を加える必要はあるが、それは別の機会に譲ることにして、本章では基本的に調査データにのみ基づいた考察を行う。

2 母音

この節ではまず短母音について概観し、母音連続や長母音に見られる方言間対応について検討する。

2.1 広母音

広母音は/a/の1種類で、平唇前舌広母音[a]である。標準日本語の/a/に対応している。

表1：母音/a/

項目番号	H-325	H-047	H-229	H-350	H-363
単語	油	踵	田	穴	綱
三根	abura	akke:~akkei	tabara	ana	tsuna
大賀郷	abura	kakato	tabara	ana	tsuna
檜立	abura	kakato	tabara	ana	tsuna
中之郷	abura	akki:	tabara	ana~doma	tsuna
末吉	abura	akke:	tabara	ana	tsuna~na:

2.2 半狭母音

半狭母音は/e/と/o/の2種類で、平唇前舌半狭母音[e]と円唇後舌半狭母音[o]である。標準日本語の/e/, /o/に対応している。

表2：母音/e/

項目番号	H-076	H-147	H-053	H-284	H-315
単語	枝	雄山羊	涙	着物	酒
三根	eda	jagime	menada	hebira	sake
大賀郷	eda	jagime	menada	hebera ~kimono	sake
檜立	eda	jagime	menada	hebera ~madara ~kimono	sake
中之郷	eda~jeda	jagime	menada	hebera	sake
末吉	eda	jagime	menada	hebira	sake

表3：母音/o/

項目番号	H-135	H-029	H-294	H-357	H-502
単語	魚	腰	緒	井戸	一人
三根	jo	koçi	oba	ido	tori
大賀郷	jo	koçi	hanao	ido	tori
檜立	jo	koçi	hanao	ido	çitori~tori
中之郷	jo~ijo	koçi	o~hanao	ido	çitori
末吉	jo~sakana	koçi	hanawo~hanao	ido	çitori~çtori

2.3 狭母音

狭母音は/i/と/u/の2種類で、[i]は平唇前舌狭母音[i]である。一方、/u/は厳密には平唇中舌狭母

音であるが、[u]や[w]を用いている。標準日本語の/i/, /u/に対応している。無声子音が前後する環境では無声化が起りやすいという点についても標準日本語と同様である。表4、表5に例を示す。

表4：母音/i/

項目番号	H-034	H-055	H-143	H-414	H-232
単語	肘	息	ヒトデ	網	肉
三根	çi ^d zi~çizi	iki	çitode	ami	niku
大賀郷	çi ^d zi~çidzi	iki	çitode	ami	niku
檜立	çizi	iki	çtode	ami	niku
中之郷	çidzi	iki	çitode	ami	niku
末吉	çizi~çidzi	iki	çitode	ami~jo:ami	niku

表5：母音/u/

項目番号	H-283	H-297	H-015	H-038	H-052
単語	夢	裏	歯	指	ほくろ
三根	jume	ura	nukaba	jubi~ibi	kũsube
大賀郷	jume	ura	nukaba~ha	jubi~ibi	hokuro
檜立	jume	ura	nukaba	jubi	kũsube
中之郷	jume	ura	nukaba~φũa	jubi~ibi	hokuro
末吉	jume	ura~oçiro	nukaba~ha	jubi	hokuro

2.4 長母音，二重母音

2.4.1 長母音

/u:/, /a:/, /i:/はいずれも短母音の持続時間が長くなったもので、標準日本語の/u:/, /a:/, /i:/にそれぞれ対応している。

表6：/u:/, /a:/, /i:/

項目番号	H-072	H-097	H-461	H-458	H-457
単語	灸	胡瓜	夫婦	祖母	祖父
三根	k'u:	k'u:ri	φu:φu	ba:tçan~bamba	dzi:tçan
大賀郷	ok'u:	k'u:ri	φu:φu	ba:tçan	dzi:tçan
檜立	k'u:	k'u:ri	φu:φu	oba:tçan	odzi:tçan
中之郷	k'u:	k'u:ri	φu:φu	ba:tçan~babba	dzi:tçan
末吉	ok'u:	k'u:ri	φu:φu	ba:tçan~bamba	dzi:tçan

中世日本語の才段開音に対応する音は[o:]で現れるが、才段合音に対応する音は坂下では[ei]や[e:]、坂上、末吉では[i:]で現れる。

表 7 : /o:/, /e:/

項目番号	H-311	H-316	H-256	H-257
単語	砂糖	麴	今日	昨日
三根	sato:	ko:dʒi	kei	kinei
大賀郷	sato:	ko:ʒi	ke:	kine:
檜立	sato:	ko:dʒi	ki:	kini:
中之郷	sato:	ko:dʒi	ki:~k'o:	kini:~kine: ~kin'o:
末吉	sato:	ko:dʒi~ko:ʒi	ki:	kini:

2. 4. 2 標準日本語の/ira/, /iwa/, /awa/に対応する音

標準日本語の/ira/や/iwa/という音連鎖には[ja]が対応している¹。表 8 に挙げたものの他にも、大賀郷において「白飯」を[çameçi]としていた。ただし、これは比較的古い語彙においてみられる対応で、「菰」のように新しい語彙はどの集落でも[nira]となっている。

表 8 : 標準日本語の/ira/, /iwa/に対応する音

項目番号	H-005	H-168	H-175	H-356
単語	白髪	虱	鶏	庭
三根	çaga	çamme	n ^h attorime	n ^h a:
大賀郷	çaga~çiraga	çamme ~çamme	n ^h attorime	n ^h a:
檜立	çaga	çamme	n ^h attorime	n ^h a:
中之郷	çoğa	çamme	n ^h attorime	n ^h a:
末吉	çaga~çiraga	çamme	n ^h attorime	n ^h a:

標準日本語の/awa/には坂下では[o:]が対応するが、坂上や末吉では[a:]や[ɥa]が対応する。ただし、同じ/kawa/でも「川」では上記の対応を見せるものの、「皮」ではそれを見せない。

表 9 : 標準日本語の/awa/に対応する音

項目番号	H-361	H-425	H-195	H-051
単語	縄	俵	川	皮
三根	no:	to:ra	kawa~ko:	kawa
大賀郷	nawa	tawara~to:ra	kawa~ko:	kawa
檜立	nawa~nɥa	tɥara~tawara	kawa	kawa
中之郷	noa~n ^h a:	tawara~dzukku	ka:~kawa~ka:ra	kawa
末吉	na:	ta:ra	ta:da	kawa

¹ ただし、「庭」は[n^ha:]という長母音になっている。「鶏」では[n^ha:tori]ではなく[n^hattori]と重音節になっていることから、[n^ha:ttori]という超重音節を避けたものと解釈できる。

2.4.3 標準日本語の/ae/, /ai/に対応する音

標準日本語の/ae/には坂下（三根，大賀郷）及び末吉では[e:]が，坂上（檜立，中之郷）では[ja:]が対応している。ただし，「前」は坂上において[m^ha:]とはならず[mae]である。

表 10：標準日本語/ae/に対応する音

項目番号	H-164	H-162	H-485	H-083	H-243
単語	蠅	蛙	名	苗	前
三根	he:me	kaerume ~k ^h a:rume	na~name:	ne:~nae	me:
大賀郷	he:me	kaerume	namae~name:	ne:	me:~mae
檜立	ça:me	kaerume ~k ^h a:rume ~k ^h a:rome	namae	n ^h a:~nae	mae
中之郷	ça:me	k ^h a:rume	nam ^h a:	n ^h ia	mae
末吉	he:me	kaerume	name:	ne:~nae	me:

次に，標準日本語の/ai/も坂下（三根，大賀郷）及び末吉では[e:]が，坂上では[ja:]が対応している。標準日本語の/wai/に対応する音として，[wja]という音連鎖が出てくる点は興味深い。

表 11：標準日本語/ai/に対応する音

項目番号	H-265	H-375	H-486	H-017	H-008
単語	来年	たらい	お祝い	口蓋（あご）	額
三根	rainen	tarai~tare:	juwe:	otoge: ~otogei	çite:
大賀郷	rainen~de:nen	tarai~tare:	juwe~oiwai	otoge:	çite:
檜立	r ^h a:nen ~dza:nen ~rainen	tar ^h a:	iwai	otog ^h a:~ago	çtça:~çitça:
中之郷	r ^h a:nen ~dza:nen	tar ^h a:	juwja: ~juwai ~oiwai	otog ^h ia~ago	çitëa'
末吉	de:nen	tare:	juwe:~jue:	otoge:~ago	çite:

一方，「貝」や「櫂（船のカイ）」のように，上記の対応を見せず，どの集落も[kai]で実現したような単語もある。「貝」に関しては標準語をそのまま発話したと見るべきだろう。なぜなら，「貝殻」に対して[ke:go:]と[k^ha:go:]といった形式が，トコブシに対して[k^ha:gome]といった形式が対応し，また，貝の総称がないと答えた話者もいるからである。

表 12：標準日本語/kai/に対応する音

項目番号	H-131	H-413	(H-131)
単語	貝	カイ	貝殻類
三根	kai	kai	ke:go:
大賀郷	kai	kai	NR
檜立	kai	kai	ke:go: k'a:gome (トコ ブシ)
中之郷	kai	kai	k'a:go:
末吉	kai	kai	NR

上記の他にも、坂上、末吉では[e:]、坂下では[ja:]が対応する単語として「桑(の葉)」がある。この語は坂上、末吉では[kabe:]、坂下では[kab'a:]ないしは[kab'ia]であった。

2.4.4 標準日本語の/oe/, /oi/に対応する音

標準日本語の/oe/は中之郷では[i:]が対応している。また、/oi/は坂下では[oi]が対応していたが、坂上、末吉では[ui]ないしは[i:]が対応している。ただし、「甥」の場合、どの方言でも[oi]で実現した。また、「おととい」に関してはオトツイに由来している可能性がある。この場合、標準日本語で対応する音は/oi/ではなく/ui/ということになる。2.4.5 節でも指摘しているように、標準日本語の/ui/は坂上、末吉では[i:]も見られ、これと並行的である。

表 13：標準日本語の/oe/, /oi/に対応する音

項目番号	H-054	H-258	H-465
単語	声	おととい	甥
三根	koe~koi	ototoi	oi
大賀郷	koe	ototoi~utsutse:	oi~meijo:ɕi
檜立	koe	utɕitɕi:~ototsui	oikko
中之郷	ki:	utɕitɕi(:)~ototoi	oi~meijo:ɕi
末吉	koe	utɕitɕi:~ototoi	oi

2.4.5 標準日本語の/ui/, /uo/, /ue/, /io/に対応する音

標準日本語の/ui/は坂下では[ui]だが、坂上、末吉ではそれに加えて[i:]も見られた。標準日本語の/uo/は地域に関係なく[u:]で対応している。

表 14：標準日本語の/ui/, /uo/に対応する音

項目番号	H-306	H-424	H-299	H-139
単語	雑炊	篩（ふるい）	手ぬぐい	鯉
三根	zousui	φurui	tenege: ~tenugei	katsu:
大賀郷	dzo:sui	φurui	tenege: ~tenugui	katsu:
檜立	ɕzo:ɕi:~ɕzo:sei	NR	tenegi: ~tenugui	katsu:~katsuo
中之郷	dzo:ɕi:	φuri:~φurui	tenegi: ~tenugui	katsu:
末吉	dzo:ɕi:	φuri:~φurui	tenegi:	katsu:~katsuo

標準日本語の/io/に対応する音は、坂上、末吉では[jo]や[ijo]といった形で現れた。/ue/は、坂上、末吉では[ue]のほかに[we]も見られた。

表 15：標準日本語の/io/, /ue/に対応する音

項目番号	H-309	H-328	H-247
単語	塩	匂い	上
三根	ɕio	nioi	ue
大賀郷	ɕio	nioi	ue
檜立	ɕio~ɕo	nioi	ue~we:
中之郷	ɕio~ɕo	nijoi~nioi	ue~ weɕda~wenda
末吉	ɕo	nijoi~nioi	ue~uwe~ve

2.4.6 /ao/, /ei/

標準日本語の/ao/や/ei/にはそのまま[ao], [ei]が対応している。

表 16：標準日本語の/ao/, /ei/に対応する音

項目番号	H-403	H-465
単語	竿	姪
三根	sao	mei
大賀郷	sao	mei~meijo:ɕi
檜立	sao	meikko
中之郷	sao	meikko ~me:jo:ɕi
末吉	sawo~sao	mei

2.5 対格形に関わる交替

対格形は名詞の語末の音により様々な形式で現れた。以下では調査票に記録されていた対格形を地域ごとにまとめる。なお、名詞語末の母音を網羅的にするために、一部を文法調査のデータより補い、データに#を付す。

まず、三根では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /a/の場合は[o:], /o/の場合は[ou]または[o:], /u/の場合は[u:]になった。

表 17：三根における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-087	糶	momi	mom ^h o
H-057	唾	tsuba	tsubo:
H-067	怪我	kega	kego:
H-076	枝	eda	edo:
H-080	草	kusa	kuso:
H-235	坂	saka	sako:
H-423	竈	kago	#kagou #kago:
H-356	荷	nimotsu	#nimotsu:

大賀郷では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /e/の場合は[e:]または[eo], /a/の場合は[o:]または[a:], /o/の場合は[o:], /u/の場合は[u:]で現れた。

表 18：大賀郷における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-233	道	mitçi	#mitço
H-520	これ	kore	koreo
H-521	それ	sore	sore:
H-522	あれ	ure	ure:
H-514	だれ	dare	dare:
H-067	怪我	kega	kego:
H-222	泡	awa	ao:
H-080	草	kusa	kusa:
H-515	どこ	doko	doko:
H-524	そこ	soko	soko:
H-311	砂糖	sato:	sato:
H-525	あそこ	uku	uku:
H-304	粥	okaju	oke:o ²

檜立では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo(:)], /a/の場合は[a:], /o/の場合は[o:], /u/の場合は[u:]で現れた。

表 19：檜立における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-331	ご飯	meçi	meço
H-365	荷	ni	n ⁱ o:
H-302	茶	tça	tça:
H-135	魚	jo	jo:
H-301	湯	ju	ju:

中之郷では、名詞語末母音が/i/の場合は[jo], /e/の場合は[i:], /a/の場合は[e:], /o/の場合は[o-wo], [ou], [o:], /u/の場合は[u:]または[uo]で現れた。

² H-304「粥」の交替については*okaju+o>*okai+o>oke:oと推測される

表 20：中之郷における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-518	なに	ani	an ^l o
H-393	筆	ϕude	ϕudi:
H-520	これ	kore	kori:
H-521	それ	sore	sori:
H-540	真似	mame	mami:
H-522	あれ	ura	ure: #kago-wo
H-423	籠	kago	#kagou #kago:
H-193	水	midzu	#midzu: #midzuo

末吉では、名詞語末母音が*/i/*の場合は[jo], */e/*の場合は[i:]または[ja], */a/*の場合は[ajo:], */o/*の場合は[o:], */u/*の場合は[u:]で現れた。

表 21：末吉における対格形の分布

項目番号	単語	辞書形	対格形
H-394	神	kami	kam ^l o
H-402	箒	ho:ki	ho:k ^l o
H-518	なに	ani	an ^l o
H-522	あれ	ure	uri: ³
H-283	夢	jume	jumi:
H-393	筆	ϕude	ϕudzi:
H-514	だれ	dare	dari:
H-516	どれ	dore	dori:
H-520	これ	kore	kori:
H-521	それ	sore	sori:
H-540	真似	mame	mami:
H-255	傍	soba	sobajo:
H-515	どこ	doko	doko:
H-541	うそ	oso	oso:
H-193	水	mizu	#mizu:

³ 別の話者で「あれ」の対格形として[ur^la]も記録されていたが、これは ure+wa に由来する可能性がある。そう考えると末吉で標準日本語の/iwa/が[ja:]に対応することと整合性がとれる。

集落による違いを表 22 にまとめる。5つの母音のうち、集落による差が小さいのは/i/, /o/, /u/で、名詞語末が/i/の場合は[jo], /o/の場合は[o:], /u/の場合は[u:]で現れた。一方、名詞語末母音が/e/, /a/の場合は集落による差が大きい。名詞語末母音/e/の場合に関しては文法調査も含めてデータが揃わなかったので詳細は分からない。

表 22 : 集落による対格形の違い

名詞語末母音	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/i/	jo	#jo	jo(:)	jo	jo
/e/	---	e:(eo)	---	i:	i:
/a/	o:	o:~a:	a:	e:	ajo:
/o/	#ou~o:	o:	o:	#o:~ou~o-wo	o:
/u/	#u:	u:	u:	#u:~uo	#u:

2.6 母音体系

以上の結果をまとめる。

(2) 母音体系

- a. 短母音 [i, e, a, o, u (ɯ)]
- b. 長母音 [i:, e:, a:, o:, u: (ɯ:)]

標準語の母音連続と八丈方言の音対応をまとめる。

表 23 : 集落による標準語との対応関係 (V:)

標準日本語	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/i:/	i:	i:	i:	i:	i:
/e:/	---	---	---	---	---
/a:/	a:	a:	a:	a:	a:
/o:/ (開音)	o:	o:	o:	o:	o:
/o:/ (合音)	ei	e:	i:	i:~e:~jo:	i:
/u:/	u:	u:	u:	u:	u:

表 24 : 集落による標準語との対応関係 (VCV)

標準日本語	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/ira/	ja	ja	ja	ja	ja
/iwa/	ja	ja	ja	ja	ja
/awa/	o:	o:	ɯa~awa	a:	a:

表 25：集落による標準語との対応関係（VV）

標準日本語	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉
/io/	io	io	io~jo	io~jo	jo
/ei/	ei	ei	ei	ei	ei
/ai/	e:	e:	ja	ja:	e:
/ae/	e:	e:	ja:	ja:	e:
/ao/	ao	ao	ao	ao	ao
/oi/	oi	oi	oi	oi	oi
/oe/	oe~oi	oe	oe	i:	oe
/ui/	ui	ui	i:	i:	i:
/ue/	ue	ue	ue~we:	ue~we	ue~uwe~ue
/uo/	u:	u:	u:	u:	u:

3 音節頭の子音

本節では音節頭の子音について、その分布をまとめる。

3.1 破裂音

破裂音は無声，有声合わせて6種類あった。両唇破裂音は[p, b]の2種類で，標準日本語の/p, b/にはほぼ対応している。[b]は分布上の制限が見られないのに対して，ほとんどの[p]は促音もしくは撥音の後ろにのみ現れる（そのため語頭に現れることはない）という制限が見られる点も共通している⁴。ただし，例外的なものとして，「囲炉裏端⁵」[dziropuɽɕi]（末吉），H-417「鋤」[puraɔ]（中之郷）がある。

表 26：両唇破裂音

項目番号	H-075	H-326	H-038	H-057	H-140
単語	葉	天ぷら	指	唾	飛魚
三根	happa	tempura	jubi~ibi	tsubaki~tsuba	tobijo
大賀郷	happa	tempura	jubi~ibi	tsubaki~tsuba	tobijo~tobi
檜立	happa	tempura	jubi	tsubaki~tsuba	tobi
中之郷	happa	tempura	jubi~ibi	tsubaki~tsuba	tobijo
末吉	happa	tempura	jubi~ibi	tsubaki~tsuba	tobijo

歯茎破裂音は[t, d]の2種類で，それぞれ標準日本語の/t, d/に対応している。

⁴ もちろんこれは調査票が和語，漢語がほとんどであったことに由来するものであろう。

⁵ 調査項目 H-348「いろり」の関連語として出ている。

表 27：歯茎破裂音

項目番号	H-022	H-114	H-271	H-053	H-517
単語	肩	竹	朝	涙	なぜ
三根	kata~ke:na	take	tommetei	menada ~nameda	ande~adde
大賀郷	kata~ke:na	take	tommete ~asa	menada	ande
檜立	kata~ke:na	take	tommete	menada ~namida	ande:
中之郷	kata	take	tommete	menada	ande
末吉	kata~ke:na	take	tommete	menada ~namida	ande

軟口蓋破裂音は[k, g]の2種類あった。それぞれ標準日本語の/k, g/に対応している。

表 28：軟口蓋破裂音

項目番号	H-019	H-121	H-352	H-292	H-419
単語	毛	ミカン	クギ	下駄	鎌
三根	kebeço ~kebiço	mikan	kugi	geta~pukkuri	magama
大賀郷	ke~kebuço	mikan	kugi	geta~bokkuri	magama
檜立	ke~kebiçi	mikan	kugi	geta~açida	magama
中之郷	ki	mikan	kugi	geta~bokkuri	magama
末吉	ke	mikan	kugi	geta	magama

破擦音は[ts, dz]の2種類である。それぞれ標準日本語の/ts, z/に対応している。[ts, dz]は母音/i/の前では口蓋化した[tç, dz̥]で現れる。いわゆる四つ仮名の区別はなく、語中では摩擦音[z, ʒ]と自由変異の関係にある点も共通している⁶。

⁶ Maekawa (2010)が指摘するように、標準日本語の[z]と[dz]は完全な自由変異というよりも、むしろ子音の調音への時間配分の問題である。八丈方言についても同様の分析ができる可能性は高いが、本稿ではこれ以上の分析は行わず、指摘にとどめる。

表 29 : 破擦音

項目番号	H-003	H-370	H-206	H-209	H-228
単語	旋毛 (つむじ)	鉢	風	地震	溝
三根	tsumu ^d zi ~tsumuzi	hatçi	ka ^d ze~kaze	^d ziçin	mizo
大賀郷	tsumudzi ~tsumuzi	hatçi	kadze~kaze	dziçin	mizo
檜立	tsümuzi	hatçinamme	kaze	dziçin	mizoma
中之郷	tsumudzi ~tsumuzi ~uzu	hatçi	kadze~kaze	dziçin	midzo~çida ~mizo
末吉	tsumudzi	hatçi	kaze	ziçin~dziçin	midzo

なお、標準日本語の和語、漢語には見られない[tse]や[tso]が一部の語彙で見られた。ただしこれらの分布は極めて限定的であり、地域も限られる。これらがどの程度規則的に見られるかは改めて検討する必要がある⁷。

表 30 : [tse], [tso]

項目番号	H-172	H-258
単語	とんぼ	一昨日
三根	hettçome~hettsome	ototoi
大賀郷	tombome	utsutse:
檜立	tombome	ototsui / utçitçi:
中之郷	hettçome	utçitçi(:)~ototoi
末吉	tombome	utçitçi:~ototoi

また、一部の歯茎破裂音で、後ろに*i*, *u*が続く場合に破擦音にならず[dia]で現れることがあった。ただしこれは通方言的な特徴というわけではなく、中之郷の話者に限られた。しかし、中之郷に有声破擦音素がないなどといった音韻体系の問題ではない。実際、「肘」などは中之郷でも[çitçi]が現れることから、おそらく形態音韻論的な過程での違いを反映しているのだろう。

⁷ 馬瀬(1961: 112)では各地点で[tso]や[tsa]が見られるとしていたが、今回の調査データでは地域的にも限定的であった。

表 31 : [dʰa]

項目番号	H-100	H-475
単語	大根	大工
三根	de:ko~dza:ko	de:ku
大賀郷	de:ko	de:ku~daiku
檜立	dza:ko	daiku
中之郷	dʰaːkon	dʰa:ku~de:ku
末吉	de:ko	de:ku~daiku

3.2 摩擦音

標準日本語のハ行に対応するものとして、[ɸ, ç, h]の3種類がある。標準日本語と同じく、以下の分布をしている。

(3) /h/の分布

/h/

→[ç]/_i

→[ɸ]/_u

→[h]/その他

表 32 : 摩擦音[ɸ, ç, h]

項目番号	H-004	H-018	H-025	H-327	H-334
単語	雲脂 (ふけ)	髭	腹	灰	昼食
三根	ɸu̯ke	çi̯ge~hege	hara	he:	hirumeçi ~çoura
大賀郷	ɸu̯ke	çi̯ge~hege ~ho:çi̯ge	hara~χara	hai~he:	ço:ra
檜立	ɸke	çi̯ge	hara	hai~ça:	çiruge ~çirumeçi
中之郷	ɸu̯ke	çi̯ge	ɸaɾõa	ça:	ço:ra
末吉	ɸu̯ke	çi̯ge	hara	he:	ço:ra

歯茎摩擦音として[s, z]の2種類があり、標準日本語の/s, z/に対応している。また、[z]は語中において破擦音[dz]と自由変異の関係にある。

表 33：摩擦音[s, z]

項目番号	H-056	H-080	H-468	H-034
単語	咳	草	家族	肘
三根	seki	kɯsa~kuso	kazoku ~çote:	çi ^d zi~çizi
大賀郷	seki	kusa	kazoku	çi ^d zi~çizi
檜立	seki	kusa	kadzoku	çizi
中之郷	çiki~seki	kɯsa	kazoku~kan'a:	çidzi
末吉	seki	kɯsa	nakama ~kazoku	çizi~çidzi

3.3 共鳴音

鼻音は[m, n]の2種類があり，標準日本語の/m, n/に対応している。

表 34：鼻音[m, n]

項目番号	H-006	H-007	H-050	H-319	H-365
単語	目	眉	骨	糠	荷
三根	manako	mamige~mami	hone	nuka	ni~nimotsu
大賀郷	manako	majuge~mami ~mamige ~me:ge	hone	nuka	nimotsu
檜立	manako	majuge ~mamige	hone	nuka	ni
中之郷	manako	maju~majuge ~mamige	hone	nuka	ni:~ni
末吉	manako	maju~majuge ~mami	hone	nuka	ni

流音は[r]の1種類があり，標準日本語の/r/に対応している。従来，/r/は語頭には立たず，/d/になるとされてきた（馬瀬 1961: 114）。実際，表 11「来年」では語頭が[d]で実現している地域もあった。しかし，今回の調査データではこのような傾向はほとんど見られず，標準日本語の/r/は[r]で実現していた。

表 35：流音[r]

項目番号	H-297	H-514	H-507	H-087	H-424
単語	裏	だれ	六人	瓜	篩
三根	ura	dare~dai	rokunin	uri	φurui~mi
大賀郷	ura	dare~dai	rokunin	uri	φurui~mi
檜立	ura	dai	rokunin	uri	φurui~φuri:
中之郷	ura	dare	rokunin	uri	φurui~φuri:
末吉	ura	dare	rokunin	uri	φurui~φuri:

接近音は[j, w]の2種類があり、それぞれ標準日本語の/j, w/に対応している。ただし、[w]に関して一部の語彙で[e]が後続しうる点が標準日本語と異なる（表 11「お祝い」、表 15「上」参照）。

表 36：接近音[j, w]

項目番号	H-415	H-204	H-264	H-051	H-479
単語	槍	露	横	皮	私たち
三根	jari	tsuju	joko	kawa	waiça:~waira: ~waira
大賀郷	jari~tsukimbo:	tsuju	joko	kawa	warera~waira
檜立	jari	tsuju	joko	kawa	ware:ça:~waiça:
中之郷	jari~mori	tsuju	joko	kawa	warença: ~warentça:
末吉	jari~mori ~tsukimbo:	tsuju~jotsuju	joko	kawa	warentçe:~arentçe:

3.4 子音体系

音節頭に現れた子音を以下にまとめる（口蓋化したものは除く）。

表 37：子音体系

		両唇音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
障害音	破裂音	p b	t d		k g	
	破擦音		ts dz			
	摩擦音	φ	s z	ç		h
共鳴音	鼻音	m	n			
	はじき音		r			
	接近音	w		j		

4 音節

調査の中で確認された音節の種類は、以下のとおりである。

- (1) C(S)V /se/ ([se] 背丈 H-49) , /ke/ ([ke] 毛 H-19) , /ha/ ([ha] 歯 H-15)
 /cja/ ([tca] 茶 H-302) , /cjo/ ([hettcogo] へそ H-028)
- (2) C(S)VV /sei/ ([sei] 背丈 H-49) , /oi/ ([oj] 甥 H-465) ,
 /sjoa/ ([coāga] 白髪 H-005)
- (3) C(S)VQ /naQ/ ([nappa] 菜 H-99) , /baQ/ ([battame] バッタ H-173)
 /sjoQ/ ([coppakia] しょっぱい H-310) , /heQ/ ([hessogo] へそ H-028)
- (4) C(S)VN /ten/ ([tempura] 天ぷら H-326) , /nin/ ([ninniku] にんにく H-320)
 /mjan/ ([om'anea:] あなたたち H-481) , /cjan/ ([to:tean] 父 H-450)
- (5) C(S)VR /seR/ ([se:] 背丈 H-49) , /koR/ ([ko:dzi] 麴 H-111)
 /njaR/ ([n'a:] 庭 H-356) , /mjaR/ ([om'a:wa] お前は 文法 43) ,
- (6) C(S)VVR /kūaR/ ([kūa:] 皮 H-51) , /soaR/ ([josoa:suru] 相互扶助 H-490)

この他に次のような音節が予想されるが、今回の調査の中では該当単語が存在しなかった。調査語彙を増やせば、今後、これらの音節が確認される可能性がある。

- (7) C(S)VVQ 未確認
- (8) C(S)VVN 未確認
- (9) C(S)VRN 未確認

5 音節末の子音

音節末に子音が現れる例として、促音（重子音）と撥音を採り上げる。

5.1 促音

5.1.1 音韻分布

無声促音として[pp, tt, kk, tts]がある。

表 38：無声促音

項目番号	H-099	H-173	H-341	H-028	H-494
単語	菜	バッタ	台所	臍（へそ）	三つ
三根	nappa	battame	kokkuba	hettçogo	mittsu
大賀郷	nappa	battame	kokkuba ~okatte	heso	mittsu
檜立	nappa	battame	kokkuba ~otema ~daidokoro	hettçogo	mittsu
中之郷	nappa	battame	kokkuba	hettçogo	mittsu
末吉	nappa	battame	kokkuba ~kokuba	hessogo~heso	mittsu

地域によって有声促音が見られた。有声促音は[bb, dd]の2種類で、[gg]は末吉の[çiggeta]の1例のみであった。また、有声促音が他の地域や話者においては [mb]や[nd]に対応するなどの特徴が見られた。

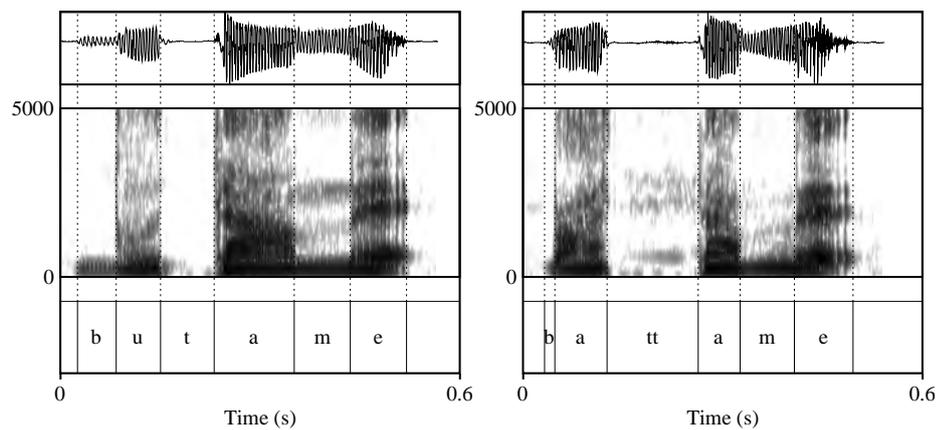
表 39：有声促音

項目番号	H-030	H-274	H-458	H-517	H-059
単語	尻	夜	祖母	なぜ	涎
三根	çimbeta	joru	ba:tçan ~bamba	ande~adde	jondare
大賀郷	çimbeta	joru~jombe	babba ~oba:san	ande~adde	jondare
檜立	çirippeta ~çibbeta	jobbe	oba:tçan	ande:	jodðare ~jodare
中之郷	çibbeta	jobbe	(o)ba:tçan ~babba	ande	jodare ~joddare
末吉	çiggeta~çiri	joru~jobbe ~jombe	ba:tçan ~bamba ~umma	ande	jondare ~jodare

5.1.2 音声実現

日本語の促音の音響的特徴としては、持続時間を第一に挙げることができる。八丈方言においても同じで、促音（重子音）の狭窄部分の持続時間は非促音（単子音）の狭窄部分に比べ長く実現していた。たとえば、図1の/t/と/tt/の持続時間はそれぞれ80msec.と135msec.であった。

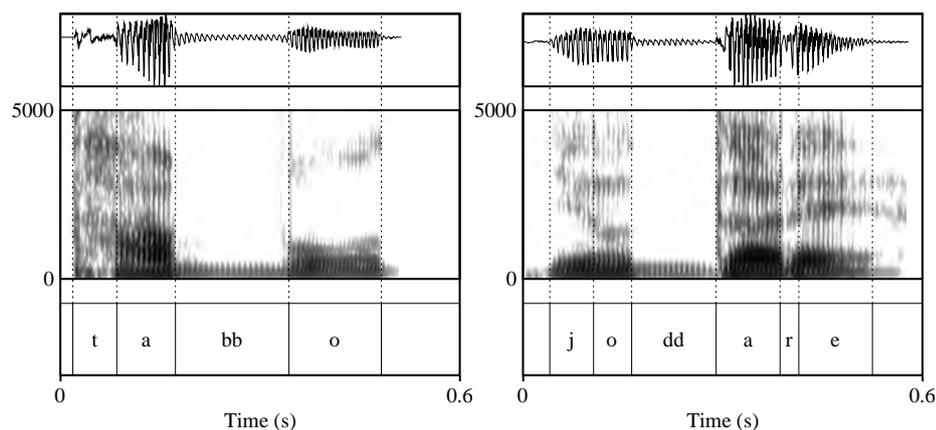
図1：/butame/（豚；左）と/battame/（バッタ；右）の音声波形とスペクトログラム



次に有声促音の音声実現について検討する。日本語東京方言では、有声促音は外来語に限られ、音声的にも半無声（half-devoicing）になる（Kawahara 2006）。一方、天草本渡方言では有声促音は完全有声で実現する（松浦 2012）。

八丈方言では集落間でも個人間でも差が見られた。まず、檜立では有声促音は完全有声で実現した。

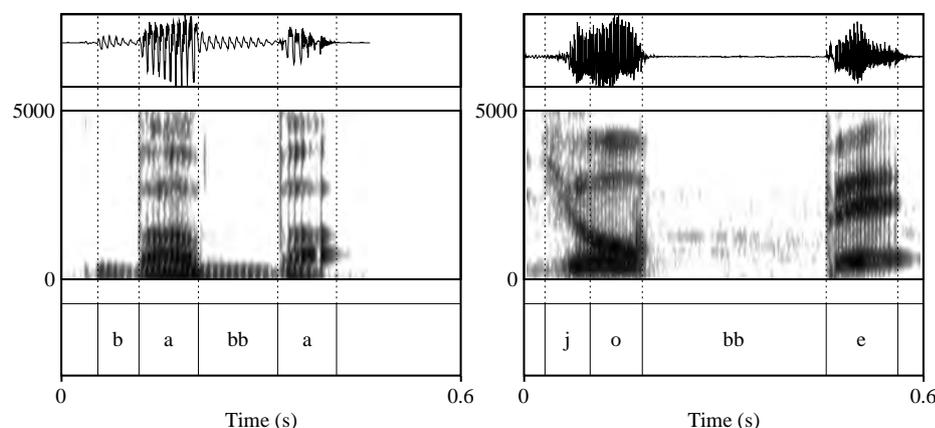
図2：檜立における/tabbo/（手；左）と/joddare/（よだれ；右）の音声波形とスペクトログラム



一方、中之郷では個人間で差が見られた。ある話者は檜立と同様、狭窄部分も完全有声で実現している（図3左）。ところが別の話者では、狭窄部分はほぼ無声となって実現している（図3

右)⁸。

図3：中之郷における/babba/（祖母；左）と/jobbe/（夜；右）の音声波形とスペクトログラム



5.2 撥音

音節末の鼻音（撥音）として[m, n, ŋ]などが見られた。語末（発話末）では[n]や[ŋ]で現れた。

表40：撥音の分布

項目番号	H-326	H-342	H-064	H-320	H-095
単語	天ぷら	天井	たんこぶ	にんにく	さつまいも
三根	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
大賀郷	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo
檜立	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo ~satsuma
中之郷	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	kammo ~kanço~dziki:
末吉	tempura	tendzo:~ama	taŋkobu	ninniku	satsuma ~kanço:

6 アクセント

馬瀬(1961)などで指摘されているように、八丈方言では弁別的なアクセントを確認することはできない。調査データを見る限り、単独でのピッチパターンは第1モーラが高、第2モーラ以降が低となるものが多く見られた。

参考文献

金田 章宏 (2001)『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院。

⁸ 無声となる話者は/bb/の閉鎖部分がかなり長いということも影響しているかもしれないが、九州方言での研究では長さや声帯振動に関係性が見られなかったことから慎重を期すべきである。

Kawahara, Shigeto (2006) “A faithfulness ranking projected from a perceptibility scale: The case of [+voice] in Japanese.” *Language*, 82, 536–574.

国立国語研究所 (1950) 『八丈島の言語調査』

Maekawa, Kikuo (2010) “Coarticulatory reinterpretation of allophonic variation: Corpus-based analysis of /z/ in spontaneous Japanese.” *Journal of Phonetics*, 38(3), 360-374.

馬瀬 良雄 (1961) 「八丈島方言の音韻分析」『国語学』43（『日本列島方言叢書』7に再録。引用もこれより行う）。

松浦 年男 (2012) 「有声阻害重子音の音声実現における地域差に関する予備的分析」『日本音声学会第26回全国大会』